

憲法を守り活かす社会に 組合員の言葉で綴る平和への思い



北朝鮮と韓国の間で非核化の動きがすすみ国際的に平和を求める動きが加速するなかで、改憲の動きや憲法9条について、職場で聞いてみました。憲法を変えて「戦争をできる国」になることは、自分たちの生活にかかわることだと、広げていく必要があります。今回は、計量検定所で寄せられた声を紹介します。

- 戦争は絶対に反対です。憲法9条があるからこそ、平和が守られます。海外で軍事行動を起こさせない為にも憲法の改悪には反対です。
- 憲法9条は、戦争の永久放棄と陸海空その他の戦力は保持しないと明記している。この9条があるからこそ、日本は平和が保たれている。憲法9条を守り抜こう。
- 私たちは憲法9条に誇りを持ち、平和で戦争をしない日本、対話による戦争のない世界の実現のため、自分たちのできることを、始めて行かなければならない時に来ているのではないのでしょうか。
- 北朝鮮の軍事的な威嚇行動は理解できず、歯がゆい思いだったけど、いま一気に平和的な解決の方向がすすみ凄くうれしい気持ちになっています。平和憲法を持っている私たちが世界の平和を願う人たちと手を取り合って頑張っていく時だと感じています。
- 改憲を叫び、対話より圧力の安倍首相は平和の蚊帳の外にみえます。平和憲法の存在、大切さを感じています。
- 隠蔽、改ざん、女性蔑視の安倍政権に憲法を変える資格なしです。
- 日本の防衛費って五兆円やったかな。平和を築くために経済支援など外交等に使う方が役立つのではと思う。北東アジアでの平和への動きが進展するほど日本の平和憲法の存在を実感します。いまこそ「憲法守れ」の声をあげるときです。



改憲許さない!5・3お
おさか総がかり集会」が
扇町公園で開催され、2
万人が参加しました。集
会では、立憲民主党、日
本共産党、社民党、自由
党の野党4党の代表者か
ら発言がありました。
また、全国市民アクシ
ョンから香山リカさん
(精神科医)が連帯挨拶
を行い、「安倍9条改憲N
Oー全国統一署名」が1
350万筆を超えたと報
告しました。その後、各
分野から連帯のスピーチ
がありました。最後は
「参加者全員で「憲法こ
わすな」「安倍政治ノー」
のポテッカーを掲げてア
ピールを行いました。集
会后、3コースにわかれ
てパレードしました。

“自分も何かしなくては”と初めて参加

吹田保健所 香西 資子さん



に、軍事にはお金をかけ続け、
アメリカの言いなりで憲法も改
悪し再び戦争をしようとするこ
と、森友問題やセクハラ問題、
やりたい放題の安倍政権に憤り
を感じもんもんとしていまし
た。今までは誰かが何かをして
くれる...という意識が潜在的に
ありました。ふと周囲を見回す
と、今まで先導してきてくださ
っていた方々がどんどんいなく
なっていることに気づき、自分
も何かしなくては...と思い、集
会に初めて参加を決めました。
2人の子どもを連れて参加
し、集会後のパレードでは、子
どもらも太鼓・笛を鳴らさせて
もらい、意味はまだまだ分から
ないと思うのですが、いろんな
活動をされている方のおかげで
今がある、ということ伝えて
いければと思っています。
集会は、芸人9条の会の方、
野党の議員さんたち、子ども
未来を考えるママの会の方、学
生団体の方等々の力強いスピ
チ、ライブもあり、それぞれの
立場でいろんな活動をされてい
ることに励まされました。自分
ひとりでは何もできないけれ
ど、組合活動やこうした活動に
参加することで、先人たちが培
ってきたことを次世代により
い形で残せるように、少しづつ
やっていこうと思った一日で
した。



医療の現場から

府民のいのちと健康を守る府立病院に ⑤

大阪はびきの医療センター 有井 洋子

患者さんや家族の一番近くで声を聴き、 より良い方向で支援したい

もうけ優先で医療の
質・量の低下を危惧

この1年間、黒字化を
目指し毎月入院患者の確
保状況、赤字・黒字状況
がメールで一斉送信され
ていました。今年4月、
黒字化し、新病院の基本
設計が始まるとメールが
届きました。

同時に4月には、診療
報酬と介護報酬が改定さ
れ、「入院から介護、在
宅へ」と誘導する仕組み
になりました。癌など手
術や救急に対応する「急
性期病床」のうち、患者
7人に看護職員1人の7
対1看護は手厚く報酬も

高いため、看護師が少な
くてすむ「10対1看護」
に転換する仕組みがこ
うなりました。あわせて、
重症者の割合が現行の25
%から30%に引き上げら
れ、より重症な人を入院
させる必要があるため、
一定重症でない患者さん
は早期退院を迫られま
す。「10対1看護」にな
ると減収になり経営が庄
迫され、人件費削減や医
療の質・量が低下すると
危惧されています。

多様な患者さんに 対応し緊張高い

私は、現在、有料個室
病棟(20床)で勤務して



います。
深夜勤務
をしてい
ると、明
るくなっ
て夜明けが来たとかわかる
と少しホッとします。
働く環境をよくし
てより良い支援を
したい

10階病棟は、44床と46
床の一般病棟で7対1看
護体制ですが、黒字化を
目指した人件費抑制のた
め深夜勤務2人体制でし
た。そこで組合が要求
し、一ヶ所ですが夜勤専
従看護師を配置させ、4
月より3人夜勤体制が実
現しました。引き続き3
人夜勤体制を目指し、働
く職場環境を良くしてい
きたいです。あわせて診
療報酬が変わっても患者
さんや家族の一番近くで
声を聴き、より良い方向
で支援していきたいと思
います。

りがことたいちの 職場訪問

こんなところにも組合員②

大阪府立中之島図書館 (大阪市北区中之島)
大阪資料・古典籍課 総括主査 山田 瑞穂さん



館内の案内をする山田さん

くれます。
この図書館では、約20
人の府職員が働いていま
す。休みの日には他の図
書館で働いてくれている
職員もいます。
でき、喜んでもらえたと
きにやりがいを感じる」
と、日々利用者が求めて
いる資料や情報にたどり
着くためのサポートに全
力を注いでいます。
学生時代に大学の図書
館で見た資料が見つか
らずに困っているときに
に、図書館の職員が資料
を取り寄せてくれたこと
がきっかけとなって、図
書館の役割を
守り、継承したい
山田さんは「図書館は
住民や弱い立場にある人
がお金をかけなくても、
生きていくうえで必要な
知識や正しい情報を得る
ためにある」「1990
年以前の情報はインター
ネットより本の方が正し
い情報が多く、都道府県
算も大幅に削られていま
す。また、図書館司書の
採用試験がなかった時期
もあり、経験やノウハウ
の継承が以前に比べて難
しくなっています。職員
数も少なくなり、業務負
担が大きくなり、コミュ
ニケーションを取る時間
が少なくなっていること
も、山田さんの悩みにな
っています。
山田さんは「図書館司
書の採用を増やし、ノウ
ハウを培っていくことに
力を入れたい」と力強く
話しをし、山田さんの言
葉からは図書館の役割や
司書の仕事をもっと知っ
てほしいという思いが伝
わってきました。
【聞き手
茂内梨香子・越智太二